



陰陽五行論塾Contents

宿命内の異常干支

宿命内の異常干支

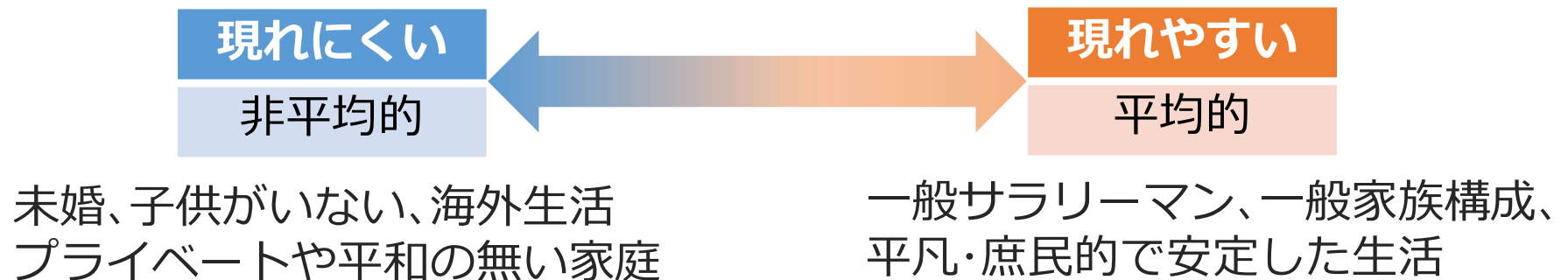
- 宿命内に所有した場合、様々な異常性が現れる。
 - 行動、思考、感性などが一般の人とは異なる
 - 他人からは、奇妙な人や個性的な人として見られる
- 六十干支の内、異常干支は、以下の13種類が該当。

番号	11	12	18	19	23	24	25	30	35	36	37	48	54
干支	甲戌	乙亥	辛巳	壬午	丙戌	丁亥	戊子	癸巳	戊戌	己亥	庚子	辛亥	丁巳
二十八元	辛丁戌	甲壬	戊庚丙	己丁	辛丁戌	甲壬	癸	戊庚丙	辛丁戌	甲壬	癸	甲壬	戊庚丙

※ 辛巳、壬午、丁亥、己亥は、特に異常性を発揮する。

異常干支: 甲戌(11)、乙亥(12)

- 日座天中殺の組み合わせ。正式には異常干支では無い。しかし、申酉天中殺の代表格であり天中殺現象の強さを所有するため、特別条件として異常干支扱いとする。
- 宿命のどの柱であっても人生のスタイル、性格、思考法などに異常な現象が見られる(日座天中殺の要素)。
- 異常性が現れるかどうかは、環境によって大きく左右される。



異常干支: 辛巳(18)

- 日干が火性の上に置かれ、その気(辛)が非常に弱体化している。
 - 先祖の運気が衰退した家系から生まれやすい。
 - 「蔑み(さげすみ)の花嫁」
女性の場合、婚家で辛い立場に置かれやすい。
- ※ 通常は嫁ぎ先の家が繁栄し、実家は衰退している。
婚家から衰退した実家のことを批判される。
- 異常性が現れるかどうかは、経済環境によって大きく左右される。

辛巳^金_火



異常干支: 壬午(19)

- 真夏の海の様な宿命であり、非現実的な夢・空想力の強い人。
- 表面上はわからないが、精神の内面に異常な思考を有している(精神の異常性)。
- 孤独な環境にいる人や独身の場合は、強い靈感能力を持つ。
- 「戦場の花嫁」
女性の場合、婚家で辛い立場に置かれやすい。
※ 本人の感性の鋭さから先読みをしてしまい、言わなくてもよい事まで言ってしまう。婚家に在って、通常の嫁の立場を弁(わきま)えない出過ぎた行為が、夫側の身内・親族とのトラブルを生み出してしまう。
(嫁ぎ先の戦場を自ら作り出してしまう)

異常干支: 丙戌(23)、戊戌(35)

- 特別条件として異常干支扱いとする。(甲戌・乙亥同様)
- 本人の教養の度合いが異常性に大きく影響する。



教養	正規の教育課程の中に身を置き、最終学歴は大学卒以上。
知的な生活	職業であれば、例えば、学者・研究者・教育者・小説家等。 日常の中で常に、知識・思考力を活用する必要のある生活。
身強の配偶者	天南星・天禄星・天将星を持った配偶者。身強の配偶者の影響によって、現実生活を優先していく様になり、異常性が抑えられる。

※身強の現実=知性や学力等の知力よりも体力を要する世界

異常干支: 丁亥(24)

- 干支は水上の灯火の姿。非常に立場の弱い状態。
- 純粋な靈感能力※を所有する(精神の異常性)。
※ 靈感能力=精神面の異常。人には見えない、聞こえない、
感じないものが、見えたり聞こえたり感じたり出来る。
- 特別な修行をしなくとも靈感能力が現れるが、
結婚することで弱まる。
- 「異国の花嫁」
女性の場合、嫁ぎ先の価値観が理解できない、
配偶者と話が合わない人が多い。
- 「九流の術士」・・・非凡な才能の所持者。

九

数えられない程に実数が多い事
(漢数字の九は現実の最大を表す)

流

種々の分野を意味する言葉
(流派、〇〇流)

- 非常に多くの学術・技術に長け、あらゆる方法を駆使出来る
権謀術策、戦術、剣術、馬術、仁術(医術)、歴術、算術、秘術、美術、芸術、等

異常干支: 戊子(25)

- 干支は水に浮かんだ山岳の姿。脆く崩れ易い。
- 天報星の要素が最も極端に現れる異常性
(=純粋な天報星の質)を所有する。

戊

子

→天報星

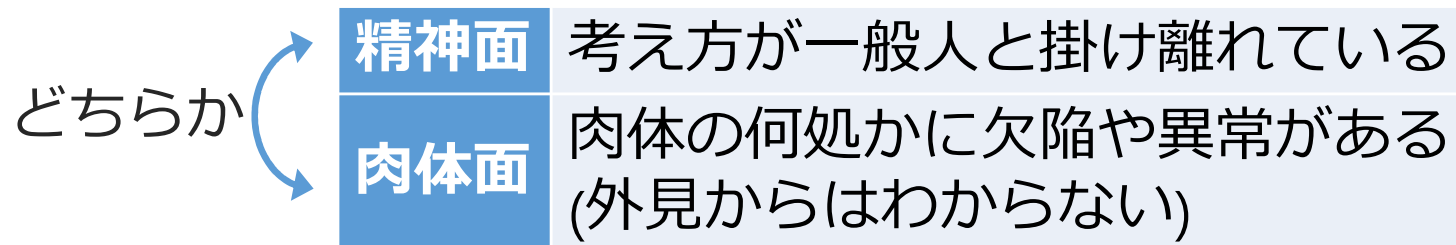
※ 陽占に天報星があるかどうか
に関わらず、戊子の干支を持っ
ていれば該当

【天報星の要素】

- ✓ 器用である程度何でもできる
- ✓ 気まぐれなお天気屋さん
- ✓ 物事に継続性がない
- ✓ 言う事がコロコロと変わる
- ✓ 立場がコロコロと変化する

異常干支: 癸巳(30)

- 干支は火の上の水の姿。相反する水と火が絶妙なバランスの上で共存している。
- 独身時代はやや奇妙で異質な人という程度だが結婚することによって異常性が強く表面化する。
- 配偶者に異常性のある人を選び易い。



- 結婚前に、精神面も肉体面も全く異常のない人の場合でも、
癸巳の人の影響力によって結婚後に異常が加わる場合がある。

凡人の真似する事の出来ない、優れた才能も異常性

- 精神面: 高尚な精神性や優れた精神的才能など
- 肉体面: 強靱な肉体や極端な柔軟性など

異常干支: 己亥(36)

- 干支は、水と土が混じり合い一体化した泥沼の姿。
- 靈感能力が強い。特に身体が靈感能力を発揮し
肉体の異常を所有する人。
 - 肉体を活用・動かす技術への特殊才能
例) ヨガ、体操、手品、奇術等
 - 顔以外の部分に眼・耳・鼻を所有しているかの
ような、特殊な感覚能力を肉体に備える。
- 「戦場の花嫁」
壬午と同様であり、女性が所有すると辛い干支。
 - 戦いの日々を送る、家族の中で一人浮くなどの
事象が起こりやすい。

異常干支: 庚子(37)

- 庚は強火による制剋で、形を整え使用する事に見事さがあるが、庚子は水に没する岩石の姿。
 - 庚の本質が生かしにくい環境。
水の中にあるため、一切変形する事がない。
=(庚としての)役目を果たせない。
- 安定した家庭環境の中で、両親に過保護に育てられると健康面の異常が現れる。
 - 特に内臓に異常が現れ(虚弱症状)、親・身内に大いに心配を掛ける。

※ 過保護故に現象化されるもので、命に別状はない。
保護される事で自己発揮が出来ず、自らが自らに細やかな抵抗を試みている様なもの。

異常干支: 辛亥(48)

- 辛は真水で常に奇麗に磨かれ(陶洗)、柔らかい光(スポットライト)が当たる事を理想とする。
しかし、辛亥は、庚子と同じく水に没する姿。
気質が脆くデリケートな宝石が水に沈んでいる。
 - ※ どんなに貴重な存在であっても水に没してしまい
その存在すら不明となってしまう。
- 異常性は、形態(肉体)の異常として現れる。
 - 五体満足に生まれても、人生の何処かで肉体に傷を負い易い(怪我・事故・病気等、原因は様々)。

整形手術等、自ら進んで肉体にメス等を入れないこと。
どんなに優秀な医師の執刀でも、傷が残りやすい。

異常干支: 丁巳(54)

- 天干、地支ともに火であり天地一体。身強の強さを所有している。

丁巳^火_火 → 天将星

※精神(天干)と現実(地支)の一体をもって、最高の安定状態とする。よって、丁巳を所有するという事は、この世に生まれた時の条件が、或る部分(年柱・月柱・日柱)において最高を示している。

- 先祖の運気の強い家系から生まれ易い。家系の運気の強さが本人の代で終わり、本人も含め次から衰退となっていく。
- 異常性が現れるかどうかは、経済環境によって大きく左右される。



異常干支の分類とその特徴

- 異常干支は、その特徴から、五つの種類に分類する事ができる。
- 基本的には身弱星となる。 ※一部例外あり

種類	内容	異常干支
I	特別条件で異常干支に含める (申酉天中殺の代表)	甲戌→天印星 乙亥→天極星
II	特別条件で異常干支に含める (教養の程度が影響)	丙戌、戊戌→天庫星
III	本来の異常干支 (強い異常性・直感力・感性・靈感能力所有)	辛巳→天極星 壬午、丁亥 戊子、癸巳 } 天報星 己亥
IV	他の異常干支に比較して弱い異常現象	庚子→天極星 辛亥→天恍星※
V	異常性が全く表面化しない場合もあり	丁巳→天将星※

異常干支の分類とその特徴

I: 甲戌、乙亥 / II: 丙戌、戊戌

- 特別条件で異常としている

III: 辛巳、壬午、丁亥、戊子、癸巳、己亥

- 天干と蔵干に干合有り(暗合という)
- 十二大従星は天報星か天極星・・・あの世の星

干支	辛巳	壬午	丁亥	戊子	癸巳	己亥
蔵干	戊 庚 丙	己 丁	甲 壬	癸	戊 庚 丙	甲 壬
十二大従星	天極星	天報星	天報星	天報星	天報星	天報星

強い靈感能力、普通の人が捉えられない世界への感性を所有し、
この世に生きながら前世・来世を自然と捉える事が出来る人となる

異常干支の分類とその特徴

IV: 庚子、辛亥

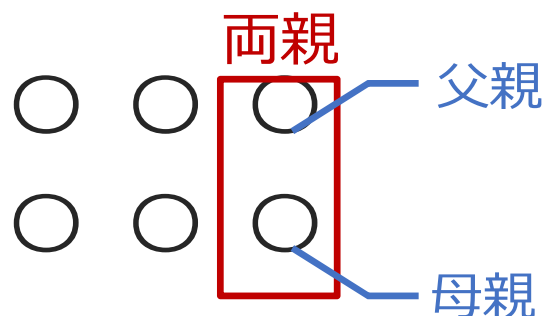
- II の様に天地が一体となっていない為、天性の異常性にはならず、弱い。
- 後天的な環境や親の育て方によって異常性が現れたり、現れなかったりする。

V: 丁巳

- 十二大従星は天将星が表出される(=この世の力量は最大)。その為、感性よりも現実的な力量で世の中を渡り歩く生き方となる。
- 天地の一体(=暗合)は無い

異常干支の中では最も異常性の弱い干支となる。

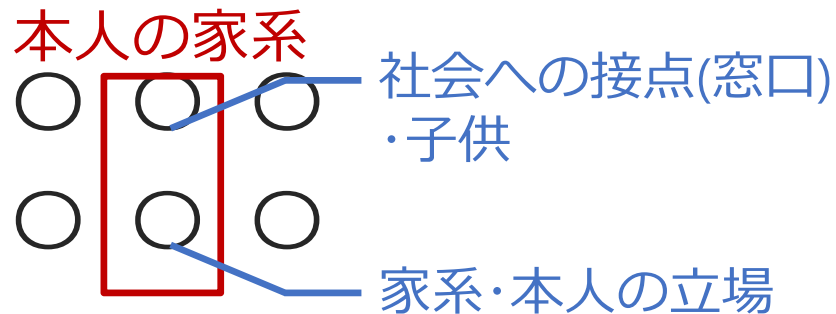
年柱の異常干支



両親の異常を示し、両親から異常なエネルギーを与えられている。

- 親の異常な因縁(良くも悪くも非凡な気質)を強く受けた人。
- 日柱(=本人)が異常干支ではなく、年柱が異常干支の場合、親子の日常生活部分に理解出来ない面がつきまとう。**※生年天中殺の場合は更に強まる。**
- 世間と比較して不自然な在り方(生活全般に亘っての特殊性)や異質・異常な面を親から吸収する事で、それらが自らの特殊性、異常性となる。
 - **感性・芸術性・霊性等に秀でた人となり、特殊な生き方で社会に関わっていく事が出来る。**

月柱の異常干支



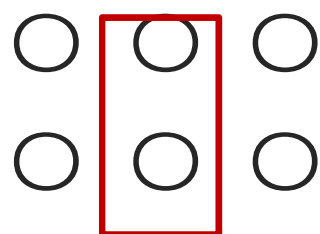
家系・立場・社会の窓口の異常を示し、家系から異常なエネルギーを与えられている。

- 家系の流れの異常性を因縁として受け止めた人。
 - 家系には数限りない先祖の気が入り込んでいる。
※一般論。月支が「立地」、或いは「月支元命」と云われるのはその為
 - これまでの先祖の異常性が強く作用して、本人が誕生している。
- 世の中への夢・希望・能力の発揮に相当する部分に異常(異質)なものが現れる。
 - 本人はまともな人間性でも、その能力の発揮方法に異質さ(常識外の手段方法)が出る。
 - 凡人が真似の出来ないスタイルを打ち出す。
 - 普通の人には理解の出来ない行為行動を行う。

月柱の異常干支

- 通常の人とは違った夢・空想を思い浮かべ易く、通常の人からは何を考えているのかが分かりにくくなる。
- 月柱異常干支に加えて陽占の中心に調舒星が表出される場合は、一般人とは全く理解し合える事がない。但し、凡人には成し得ない事を感じ取ったり考え出す事が出来る人となる。

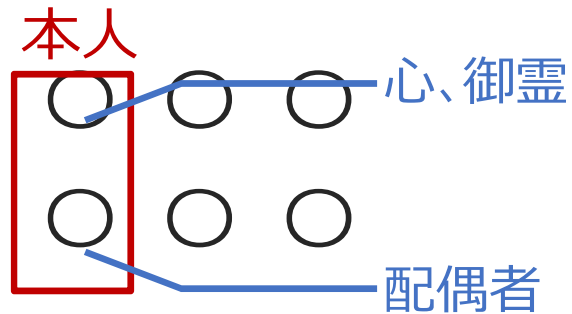
月柱が異常干支



+

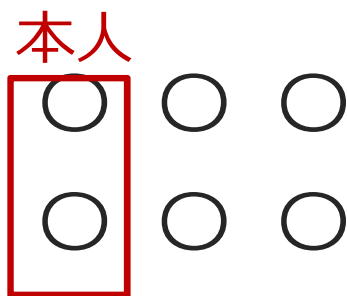
	調舒星	

日柱の異常干支

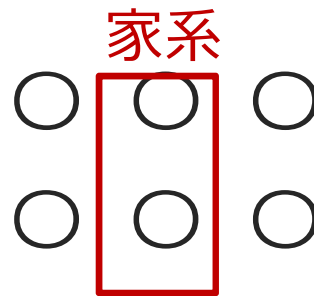


本人そのものの異常を示し、生まれながらに心の何処かに異常なエネルギーを与えられている。

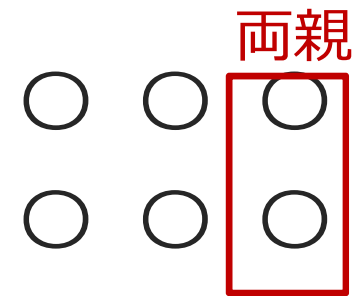
- 家系と両親の両方に内在していた不順・不自然な部分が集約され、本人の異常性となって現れた。
(両親と家系が順当であれば、異常干支を持たない)
- 異常干支の現象が最も強く表面化する。



日柱: 50%



月柱: 25% + α



年柱: 25%

日柱の異常干支

- 異質・異常な面、特殊性を隠す事なく大いに発揮した方が、本人にとっての自然体となる。
- **特殊な生き方で社会に関わっていく事が本領発揮の人生。非常識・非凡に生きる事が人生の満足と成功への世界に導く。**
 - 周囲の人に合わせる様な事はせず、自らの特殊性(感性・霊性・特殊思考・特殊想念・特殊感覚等)を大いに活かし、美術・学術・芸術・芸能等の世界に進み、自らの感じるままに人生を進めて行く事によって、凡人が足下にも及ばない成功者となる。
 - 特殊な生き方を隠したり、凡人に合わせた生き方をすることは、天性の才能・能力が全く活かされない。また内面へのストレスも大きく、悩み苦しみとなる。